

No.9

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

東京文化資源
会議
Tokyo Cultural Heritage Alliance

ニューズレター

Nachi Inoue



Yuichiro Yoshioka



Eiki Kikuchi



Masahiko Shoji



@ Greater Akihabara
Project

それぞれの好きで高め合う
ボトムアップな街・秋葉原の
これからを考える場に

「広域秋葉原 作戦会議」

「オタクの街」として知られる秋葉原。それだけではなく、電気街としての秋葉原、さらに遡れば戦後闇市から発展した商人の街など、歴史とともに街のイメージや軸が変化してきました。その変化を街全体が受け入れながら、時代とともに呼応することこそ、秋葉原の魅力なのではないでしょうか。

「江戸時代から、色々な情報や人がクロスしながら常に変化をしてきたのが秋葉原の歴史。秋葉原のこれまでの経緯を踏まえながら、これからの可能性を追求していきたい」。そう話すのは広域秋葉原作戦会議座長の庄司昌彦さん。自身も2000年代前半の秋葉原のまちづくりに関わった経験を持つ。情報技術の専門家として、最先端の街が今後どのように変化していくかに関心を寄せています。

NEXT PAGE

それぞれの好きを
許容する街

大学でオタク研究を
していたPM菊地映輝
さんは、フィールドワ
ークするなかで秋葉原に関
わる人たちとのつながりが増えてき
たという。仲間とともに自発的に秋
葉原について考えるワークショップ
を開催したことをきっかけに、次第
に現在のプロジェクトへと形を変え
ていきました。



のを大事にしている。秋
葉原の居心地の良さを
考えることで、秋葉原
らしい文化を守ってい
けるのでは」と話しま
す。

人の思いや熱量が集う場所、それこ
そが秋葉原だとすると、他の街にも
秋葉原と同じくそれぞれの文化やこ
だわりを大事にしようとする気持ち
があるという。歴史的経緯からも、
秋葉原は秋葉原単体だけでなく、周
辺の街とのつながりによっ
て成長・発展してきた街
とも言えます。

じて、秋葉原に関わる人達同士の関
係性や当事者意識の高まりが生まれ
てくる(庄司さん)

アイデアソンによって議論してき
た内容も盛り込みながら、プロジェ
クトメンバーらによる論考をまとめ
た同人誌を発行。2019
年夏のコミックマーケット
トに出店し、90冊以上
が売れたという。プロ
ジェクトを超えて多く
の人達にメッセージが
届く実感が出てきました。

画マスタープランの提
案に向けて動き始
めている。様々な
ビジネス・文化が
生まれる秋葉原
の街の未来を考
える上で、民間同
士の対話だけでなく、
行政との対話の場も
作るとういう意図がここには
ある。



「秋葉原に関わる領域の違う人達は
それぞれの立場から秋葉原を見てい
るが、交わりがあまりない。自分の
好きなものを突き詰めていく許容さ
こそ秋葉原の魅力。領域を超えた人
たちが対話することで、これから
の街を変える原動力になるのではと
思った」(菊地さん)

秋葉原を日々進化・深化し続け
様々な魅力が重層的に散在する街と
捉えつつも、急激に変化してきたこ
との軋轢などもこれまでであったと
いう。事実、かつて歩行者天国だっ
た道路も一部の過激なパフォーマン
スや事件・事故をきっかけに街全体
が冷え込んできた時期もありました。

全体を踏まえながら秋葉原の未来を
考えていく。そのためにも「分野や
領域、地域を越境しながら、秋葉原
に関わる人達がつながる場を作るこ
とが大事だ」と菊地さんは話します。



「同人誌は秋葉原の人達の
間で少しづつ話題にもなっている。
アイデアソンも同人誌も、秋葉原の
人達に話題を投げることで、様々な
反応が出てきて、対話が始まってい
く。この行為そのものがプ
ロジェクトの狙いでもあ
る」(菊地さん)

「秋葉原の魅力は個々のコンテンツ
ですが、行政担当者も秋葉原のこと
をすべて知っているわけではない。
行政の人たちとともに考える場を設
定することで、相互理解を図りなが
ら秋葉原に関わる人達とのつながり
を作っていく」(井上さん)

行政も街に関わる一プレ
イヤーと捉え、行政とと
もに都市計画と向き合
うことで「新しい秋葉
原らしい文化が生まれ
る都市空間となる可能
性も出てくる」と庄司さ
んは指摘します。

PM井上奈智さんは、自身も趣味
を多く持ち秋葉原にも足しげく通う。
秋葉原は「それぞれが好きなことを
大事にしているからこそ、街そのも

「秋葉原の魅力は、一つの事柄をと
ことん突き詰め楽しむ趣味の場所。
街が持つこれらの文化やそれぞれが
持つ情熱やこだわりを、いかに大切
していきながら変化していくかが問
われている」と吉岡さんは語ります。

プロジェクト内で議論していくな
らから秋葉原のキーワードを道と道
が十字に交差する「辻」と捉え、2
108年9月にシンポジウム「グレ
ーターアキバ・情報・知識の交差点」
を開催。その後、秋葉原のこれから
を考える場としてアイデアソンを3
度開催。テーマを変えながら分野や
立場を超えた人たちが集まり意見を
交わすことによって、次第に新たな

「アイデアソンは、一
回だけやっても意味が
ない。アウトプットそ
のものよりも、幾重に
も重ねた議論の過程を通



対話の場は、都市計画にまで広が
っている。千代田区都市計画マスタ
ープランの改定に注目し、「千代田
区都市計画マスタープランをハック
する」アイデアソンも開催。今後、
広域秋葉原作戦会議としての都市計

「記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木涉



秋葉原がある千代田区
外神田という地名をも
とに、神保町や小川町
など神田エリア全体で
神田カレীগランプリ
も企画する吉岡さん。



「アイデアソンは、一
回だけやっても意味が
ない。アウトプットそ
のものよりも、幾重に
も重ねた議論の過程を通

「アイデアソンは、一
回だけやっても意味が
ない。アウトプットそ
のものよりも、幾重に
も重ねた議論の過程を通

「アイデアソンは、一
回だけやっても意味が
ない。アウトプットそ
のものよりも、幾重に
も重ねた議論の過程を通

「記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木涉

Nachi Inoue X Yuchiro Yoshioka X Eiki Kikuchi X Masahiko Shoji

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。

帝都物語を 地図で体感する ワークショップ開催

地図ファブプロジェクトでは、荒俣宏氏の『帝都物語』をもとにした企画を推進しています。その中で、現在制作中の帝都物語地図図カテゴリーにちなんで、11月4日(月・休)に「帝都の龍脈をあるく〜帝都物語地図カテゴリーの愉しみ方〜」と題したまちあるきワークショップを実施します。

『帝都物語』は、大日本帝国陸軍・将校である加藤保憲が帝都・東京の「龍脈」を刺激して帝都への復讐の企てが物語の大きな主軸となっています。「龍脈」の場所を小説内で明確に描かれているわけではありませんが、物語を深く読み込むことでその支流と思われるルートと地図ファブメンバーが推定し、その情報をもとに今回のワークショップを設計しました。

ワークショップ当日は、上野公園に集合した後、湯島〜神田〜九段というルートで東京文化資源区内を流れる「龍脈」を、参加者それぞれのお題をもとに探しながら、東京の各地をまち歩きしていただきます。最終目的の築土神社までたどり着いたら、参加者全員によるまちめワークショップにて「龍脈マップ」なるものを作ろうと考えています。少人数での開催となる予定です。

会員の皆様へはメールニュースで詳細をお知らせいたしますので、是非ご参加ください。

本郷に滞在する 歴史ある 住宅を探る

本郷のキオクの未来プロジェクトでは7月3日(水)に「住宅地図比較ワークショップ HONGO 1961-2018」を開催しました。

このワークショップでは、今改めて「本郷の守るべき老舗や建築」を網羅的に明らかにすることを目的とし、本郷1丁目〜7丁目の1961年と2018年の住宅地図を比較する内容でした。

おかげさまで地元住民の方・研究者など20名ほどの方が集まり、共に議論しながら残っている建物に色を塗り、本郷の町の変化が一望できるような地図を完成させることができました。今後、本プロジェクトではこれらのような網羅的な作業によってあぶり出されてきた重要な地域資源を実際に歩いて見に行きながら、次のアクションにつながる次回ワークショップの開催を予定しています。



地域資源を 歴史と宗教を もとに 見つめる

湯島神田上野社寺会堂PTでは、6月21日(金)に日建設計ギャラリースペースにて、東京理科大学野野研究室(プロジェクトワーキンググループ)と日建設計による共同研究の紹介イベントとして、「街を更新する小さなパブリックスペース」神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」を開催しました。座長の吉見俊哉東京大学教授が趣旨説明「東京文化資源区ー古くから新しい東京の未来、続いて宇野東京理科大学教授が模型と映像を用いたプレゼンテーション「丘にたつ社と会堂変遷と更新」を行い、さらに日建設計の辻本顕氏が共同研究「本郷台・湯島台・駿河台のパブリックスペース」について報告。

さらにカルチャースタディーズ研究所を主宰する三浦展氏を

加えた4者によるパネルトークでは、場所のもつ公共性や潜在的な話題は多岐にわたり、対象エリアも湯島、駿河台から神泉、西荻窪へと広がりを見せ、湯島神田上野社寺会堂プロジェクトの今後にとっても示唆に富む内容となりました。

空きテナントを 活用する 新たな商店街企画

上野スクエア構想プロジェクトでは、前号でもお伝えしたとおり、4月から毎月1回程度のペースで「池之端仲町かいわい空きスペース活用ミーティング」を行っています。その成果の第1弾として、9月20日・21日の2日間にわたり「第1回アーツ・アンド・スナック運動」を実施します。



エリアに点在する6箇所の空きテナント(居抜きのスナック等)と吹貫横丁を会場として、その個性的な空間の魅力を活かしながら、さまざまな「アーツ」を楽しめるように仕立てたイベントです。

歓楽街でありながら文化・歴史に裏打ちされた独特の風情のある池之端仲町で、リアルな「スナック」空間を「アーツ」でジャックする2日間。現在、地元ビルオーナー、アーティスト、東大都市デザイン研究室、プロジェクトメンバーなど関係者が一丸となって、急ピッチで準備を進めています。

あいにく本号発行時には今回のイベントは終了していますが、今後も継続的に実施していきたくも考えていますので、引き続きご期待ください。(イベントHP) <https://www.ikenohata-nakado.com/>

文化資源を支える 地域の研究機関 設立に向けて

谷根千(谷中、上野桜木、根津、千駄木、池之端)と周辺地域(下谷、根岸、弥生、下谷、日暮里あたり)における、文化資源を支えるプラットフォームとしての「地域立」の研究機関をめざすプロジェクトとして、前号でお知らせした「うえのやねせん研究所」から「やねせんあたり研究所」に改め、具体的

なアクションに向けて動き出しました。

まずは、大学等における研究・教育成果を地域や実務に還元するためのプラットフォームづくりから着手するものとし、やねせんあたりの研究・活動のデータベースの作成、2020年2月頃の研究・活動発表会の実施を目指し、活動を進めています。

ケーススタディと 報告書の作成

リノベまちづくりでは、8月28日(水)に「第9回リノベーションまちづくり研究会」を開催。2017年度〜2018年度の報告書及び資料編を配布し、田村誠邦会長から経過報告を行った後、本年度の活動について議論しました。

本年度はワーキンググループを組織し、①法制度や金融などのしくみの検討、②神保町・谷中のケーススタディを行い、歴史まちづくりを実現していく提案をまとめることとしました。

プロジェクトメンバーからは、昨年度の要望活動で行った谷中の都市計画道路路に関わる運動にアドバイスしながら、実効性のある提案づくりを進めたいという意見などがありました。2017年度〜2018年度報告書は東京文化資源会議のウェブサイトで後日公開する予定です。

デジタル
アーカイブ
ワークショップの
計画と提案

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクトでは「デジタルアーカイブ・ワークショップ」を企画しています。このワークショップでは、地域の住民が歴史的な資料を持ち寄ってデジタル化しオンラインに公開する作業を行います。現在準備中のワークショップのテーマは「小中学校のおもいで」。少子高齢化や再開発に伴って統廃合が進む、地域の小中学校の記録を掘り起こし、コミュニティの記憶を後世に残すことが狙いです。ワークショップでは、持ち寄られた資料をデジタル化するとともに、参加者に対するインタビューを行い、資料に関する周辺情報も記録します。参加者は、資料の収集、デジタル化、公開、活用までの一連の作業を体験することになります。これを通じて、コミュニティの中で主体的に地域文化資源を発掘・活用する方法に触れることができます。本プロジェクトでは、このワークショップによる経験を通じて、地域コミュニティがアーカイブを生成する仕組みを模索します。

上野に関する
プロジェクト
報告会を実施

上野を中心とした活動である上野ナイトパーク構想、T・T・T、上野スクエアの3つのプロジェクトによる合同報告会を7月11日に開催。上野を取り巻く3つのプロジェクトそれぞれの活動の特長や今後の取組などを発表しつつ、それぞれの活動の今度の課題や、地域資源の活用、地域住民や団体との連携の可能性などをディスカッションしました。あわせて、それぞれのプロジェクトの特長を活かした連携も視野に、様々な意見を来場者からもいただき、活発な議論の場となりました。



今後、3つのプロジェクトそれぞれも様々な企画やアクショを見据えた活動を行っています。東京文化資源会議の各プロジェクト同士が連携を図りながら、地域資源の活用を活かしたまちづくりを展開してまいります。と思います。

7月11日、東京文化資源会議2019年度総会を、東天紅上野店で開催されました。総会では、2018年度活動報告、2018年度収支報告及び監査報告、2019年度事業計画案及び予算案を発表を行いました。東京文化資源会議の活動は、昨年以上の幅を見せており、活動しているプロジェクトの数も10を超え、領域も分野も超えた専門家が集いながら、協賛いただいた企業とも連携しながら様々な活動が生まれる場となっています。2018年秋に開催した交流会では、国交大臣など多くの有識者が集まり、文化資源区、および文化資源活用に向けて様々な立場の人達とともに進めていっております。



東京文化資源会議
今年度の総会開催

編集後記

広域秋葉原作戦会議が薄い本を販売するということで、人生初のコミケに行ってきた。連日20万人ほどの来場者があり会場はものすごい熱気でした。アキバチームの冊子も非常に「濃い」ででしたが、コミケで売られている冊子はどれも奥の深い内容のばかり。文化というのは様々な側面を持っていてその広がりを感じさせてくれます。コミケのこの濃い冊子たち、販売している人たちも、また日本の多彩な文化を構成するひとつですね。(陸)

上野ナイトパーク構想やT・T・T、上野スクエアという上野に関わる3つのプロジェクト報告会を開催しました。昨年開催した秋の交流会や合同報告会のように、各プロジェクトを横断しながら連携を図る動きが活発になってきました。文化資源を様々な角度から活用することによって、まちを楽しむ方法がますます盛んになってきそうです。(江)

今年は激しい台風が一気に秋を連れてきたように思います。上野公園界隈がさらに活気づく芸術の秋。東京文化資源会議の各プロジェクトでも街歩きをはじめ、イベントがいくつか予定されていますね。まだふにやふにやの次男を抱きながら、窓から入ってくる秋の風を感じると、早くお出かけしたくてうずうずもっぱら子連れお出かけ情報に敏感な今日この頃です。(雅)